

大会宣言

近年、労働災害、特に、日常生活でも発生しうる転倒や腰痛などの労働者の作業行動を起因とする「行動災害」が増加している。

その背景として、産業構造の変化、少子高齢化、人手不足、働き方の多様化、対策に取り組むメリットが見えにくいなど様々な問題があり、これまでの取組だけでは行動災害の増加に歯止めをかけることが難しくなっている。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、外出などを動かす機会が減ったことによる労働災害への影響も懸念される。しかし、どのような状況下であっても、安全衛生活動は決しておろそかにされてはならない。

企業活動の基礎を支えるのは各企業で働く人々であることは言うまでもないことであり、また、その人々が健康で安心して働ける労働環境の構築は、労使の一致した目標である。

行動災害を減らすためには、従来型の対策である作業環境や作業方法の改善に加え、行動変容を促すため、企業価値の創出、経済的損失の見える化、安全衛生教育の一層の充実などにより事業者、労働者の意識を一層高める必要がある。

我々は、本大会を契機に、

- 一、行動災害を取り巻く課題や背景要因を的確に把握すること
- 一、増加傾向にある行動災害の問題を自分ごととしてとらえること
- 一、身体機能の低下による影響を考慮し安全に仕事をするため必要な体力づくりにも努めること
- 一、働く高齢者の特性に配慮したエイジフレンドリーな職場を目指すこと

を確実に実行することを通じて、働く人だけでなく、家族、事業者、地域の全ての人の幸せのために、安全・安心な職場を築くことを堅く誓う。

右宣言する。

令和四年八月二六日

夏ゼロ運動三〇周年記念

行動災害防止大会